



# ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2018年 5月3日発行

編集・発行/  
ベガルタ仙台レディース後援会

**vol.2**  
(通算 vol.29)

## 郡和子市長表敬訪問

2月26日、郡和子市長を、会長と副会長とで表敬訪問いたしました。後援会発足の経緯やこれまでの活動をご説明しましたが、中でも、白百合女子大学様と共同で実施しております、『まごころ弁当』の事業について非常に興味を持たれ、質問するなど熱心にお聞きいただきました。

郡市長には後援会の顧問にご就任いただいております。後援会ジャンパーをプレゼントしました。

3月21日のホーム開幕戦での市長挨拶の際、着用いただき、後援会活動を盛り上げてくれました。



## 果物差し入れ



3月10日 マイナビ泉パークタウン練習場を訪ね、シーズン開幕直前の練習に励むチームの皆様へ、果物の差し入れを行いました。後援会役員の(株)いたがき様のご協賛を得て、毎年行なっている差し入れですが、今回も多くの種類の果物をお渡しできました。

練習の合間に集まっていただき、松坂会長から安本新キャプテンへ直接手渡しました。選手の皆さんには、大変喜んでいただきました。

## ホーム開幕戦で エコバッグをプレゼント

今季ホーム開幕戦が行なわれた3月21日、来場の皆さんに、「記念のオリジナルエコバッグ」をプレゼントしました。ベガルタ仙台ホームタウン協議会の協賛を得て作製した今年のバッグはきれいなピンク色。「かわいい!」の声があがっていました。

毎年、ホーム開幕戦でプレゼントしているもので、シグナルレッド、ベガルタゴールド、濃紺と続き、今年はピンク色。コンパクトながら使い勝手がよいと、好評のバッグ。全色揃えていますか?



FW <sup>はじ</sup> 樋 まどか 選手(29歳)【背番号14】MF <sup>さ</sup> 佐 <sup>とう</sup> 藤 <sup>かえで</sup> 楓 選手(26歳)【背番号19】

## ●オフの楽しみはこれから●

「伊賀フットボールクラブクノー」から同時に移籍してきた2人。佐藤楓選手(以降、楓)は初めての仙台、樋(はじ)まどか選手(以降、樋)は高校時代を聖和学園高校で過ごしたが、口を揃えて「仙台は、寒い!どこにも行かず動かないでいます(笑)」と言う。愛知県(樋)、大分県(楓)出身の2人なので、春先の強風に加え、泉が岳おろしの吹く「マイナビベガルタ仙台泉パークタウンサッカー場」は、確かに寒く感じるだろう。

パンが大好き、塩パンのおいしいパン屋さんを見つきたい(樋)、お米が大好き、お肉も大好き、仙台牛とおいしい宮城米を食べに行きたい(楓)、と言う2人がオフの楽しみを始動させるのは、仙台が新緑に包まれる爽やかな季節の頃になりそうだ。

## ●気さくなチームメート●

先からいた選手も、年齢が高い選手も、明るく、気さくに接してくれた。お陰で、思っていたより、チームにすんなりなじめたそうだ。8人もの新入団選手を受け入れる側の選手たちも、新しいチームづくりを意識していたに違いない。チームの中では、年長としての役目があると思う(樋)、若い方と思っていたのに、いつの間にか中堅どころになっていた(楓)と言う2人、年齢も個性も違うが、それぞれの立ち位置で、チームの要になっていくだろうと感じた。

## ●アピールポイントは?●

「流れを読む力がある」と、最年長(同い年が6人いる)の樋選手の答えは明快だ。試合中、疲れてくる時間とやれる時間がある。周りの選手の様子を観察し、声を出して伝え、自分も行動し、チームの攻撃の流れをつかっていく。そうしたチームへの貢献をしたい、と語る。そのために、ひたすらいろいろなサッカーを見て勉強している。外国のチームの試合を見ることも多いとのこと。チームの主軸としての期待される役割を意識した発言だ。今がこれまでよりも一番動けている、ただ、無理をしない、怪我をしないように調整してトレーニングをしているという。経験が自己管理能力

を高めているのだろう。そんな樋選手の目標にしている選手は、バルセロナのインiesta選手、そして、澤穂希選手。澤選手は、プレー、



気さくにインタビューに応じる2人

ひたむきにサッカーに取り組む選手の皆さんの、職場での姿やオフの過ごし方など、素顔の一端を紹介する「ふだん着の織姫たち」シリーズ。今年の新入団選手8名を、2名ずつ4回に分けてご紹介していきます。

雰囲気、全ての面で好きだという。

佐藤選手は「キック」をあげた。フットサル選手としても華々しい経歴のある佐藤選手だが、基本的にキックすることが好きで、いろいろな種類のキックができるように、また、両足でキックできるように、利き足ではない左足でのキック練習もしているという。まずはレギュラーに定着すること、と堅実な答えが返ってきた。これまでDFとFWが主ポジションだっただけに、マイナビ仙台LでのMFをどうこなしてくか、楽しみでもある。好きな選手としてガンバ大阪のヤットこと遠藤保仁選手、レアル・マドリードのガレス・ベイル選手の名前を挙げた。技術と見た目(イケメン)が両立している、のだそうだ。



## ●カントリーロードで一体感●



ベガルタ仙台(トップもレディースも)のサポーターの応援は、本当にすごい。ホーム開幕戦の観客の多さ、アウェイでも応援にきてくれる(樋)。初めて「カントリーロード」を聞いたときは、グッときてヤバいと思った。初めてサポーターとの一体感を感じた(楓)。気になってアップに集中でき

なかったくらい(樋)。

今まで、こんなサポーターの応援は経験がなかった、初めての経験だと強調する2人は、この中でやれることの幸せを感じ、だからこそ、結果をしっかりと残したい、そのためにチームの役に立ちたい(樋)、試合に出て、初めてのポジションをしっかりと果たしたい(楓)と今季の自己の決意を語ってくれた。

文：K.Naito

イラスト：K.Honma

(4月11日 取材)

練習場から直接インタビュー会場に現れた2人、あれ?何かイメージが違う、と思ったら、樋選手が、肩まであった髪をぱっきり切ってショートカットになっていた。「心境の変化?」と尋ねると、「髪が傷んでいたの」とあっさり。というわけで、似顔絵のイラストと取材写真は違う雰囲気ですが、両方の表情をお楽しみください。